

新任教員のご挨拶



まつだいら なお や
松平 尚也

所属・職種：農学部 農業経済学科
助教

専門：農業・食料社会学

有機農学（アグロエコロジー）

2024年4月に農学部農業経済学科の助教として着任した松平尚也と申します。これまで京都で有機農業経営や有機生協等の食の仕事に携わってきました。その中で食料・農業・農村の課題に直面し、その課題解決のために研究の道に進むことを選びました。これまで関西の大学で「農村社会学」や「食の社会学」、「食と環境」「欧米の食料と農業」といった多様な食料と農業に関する講義を担当し指導に当たってきました。

現在は、農業・農村・食料の未来への持続を考察するために、以下のテーマを中心に研究しています。

①国内外の持続可能な食料・農業政策、国際アグロエコロジー、②農業と農家と自然生態系の関係・政策、ポリティカルエコロジー、③農家行動の原理と小農・家族農業

宇都宮大学では、ゼミに加えて「国際アグロエコロジー」と「ポリティカルエコロジー」の講義を担当する予定です。

アグロエコロジーは、直訳すると農（業）生態学ですが、「生態系の概念や原理を持続可能なフードシステムのデザインと管理に応用する学問」「生態学的、経済学的、社会的側面を組み込んだフードシステム全体の生態学」と考えられています。その考え方は、気候変動や持続可能な農業・食料システムという側面から評価されています。講義では、アグロエコロジーの視点から日本の地域の持続可能な農業・農村の未来を検討する予定です。

一方で、ポリティカル・エコロジーは「環境へのアクセス、管理、変革に働く政治的な力を解明しようとする学際的な分野」であり、「政治は必然的に生態学的であり、生態学は本質的に政治的である」という考え方に基づいています。欧米で主に展開してきた研究であり、最近日本においても研究が進み始めている新興の学問でもあります。

農業経済学科は、2026年度から改組し「エコロジカル社会経済学科」と名前が変わります。新学科において担当する講義が1つの柱となるよう内容と教育の充実化を目指したいと思います。今後ともどうぞよろしくお願いします！

新任教員のご挨拶



しん い
秦 蒔

所属・職種：農学部 応用生命化学科
助教

専門：食品科学・食品加工学

2025年6月1日付で、宇都宮大学農学部応用生命化学科に助教として着任いたしました。私は中国出身で、来日後は千葉大学大学院で学び、博士号を取得いたしました。その後、日本学術振興会特別研究員（PD）として研究を続け、北海道大学にて助教として勤務し、この度、宇都宮大学で研究・教育に携わる機会をいただきました。

これまでは日本茶を機械製造する際の処理条件が茶葉自体および抽出された茶飲料の抗酸化性に及ぼす影響を研究し、日本茶の健康品質にも関わる製造条件の最適化に取り組んでまいりました。また、他の植物性食品の加工条件や機能性などに関する研究も行いました。

栃木県の豊かな自然環境の中で、宇都宮大学の先生方や学生の皆さんとともに教育・研究活動に携われることを大変楽しみにしております。学際的な色彩が強い本学だからこそ、実現ができる研究を推進していけるよう、日々研鑽を積んでいきたい、これまでの経験を活かして、地域資源やフューチャーフードサイエンスにおける新たな技術と融合させた研究を進めるとともに、教育にも積極的に取り組んでまいります。本学の研究・教育の発展に貢献できるように尽力したいと思いますので、今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



新任教員のご挨拶



あおやぎ ゆうや
青柳 悠也

所属・職種：農学部 農業環境工学科
助教

専門：農業機械学・農業情報工学

2025年6月に農学部の助教として着任いたしました青柳悠也と申します。栃木県で生まれ育ち、幼少期を宇都宮市と日光市（旧今市市）で過ごし、日光市の中学、鹿沼市の高校を卒業した後、宇都宮大学農学部農業環境工学科に入学しました。その後、学部卒業、同大学大学院農学研究科修了を経て、東京農工大学連合農学研究科（宇都宮大学配置）で博士（農学）の学位を取得するまで、計9年間、宇都宮大学で学びました。博士後期課程修了後は、信州大学社会基盤研究所で2年5ヶ月間、琉球大学農学部で2年9ヶ月間、教育・研究に従事しました。この度、宇都宮大学助教として教育研究に従事する機会をいただき、多くを学ばせていただき育てていただいた母校に恩返しできるチャンスを得られたこと、大変嬉しく思っています。

私の専門分野は農業機械学、農業情報工学で、農業機械の安全性向上や農作業の効率化に関して研究をしています。安全に関する研究では、効果的な事故防止案の提示を目的として、事故現場での挙動解析や事故要因分析に基づいて、実際の農業機械事故（トラクタ・コンバイン・田植機・歩行型トラクタ等）の危険性を定量化するとともに、機械学習や機械制御を用いた事故防止技術の開発を行っています。また、効率化に関する研究では、農用運搬台車の自律走行プログラムや農園のモニタリング画像を用いた深層学習による果実の成長予測AIなどの開発を行ってきました。今後はこれまでの研究を深化させ、安全で快適な農作業と高効率で高品質な農業生産の実現を目指した農業機械や生産システムに関する研究を進めていきます。

現在は、琉球大学在職中に指導していた学生が宇都宮大学大学院に進学したこともあり、学生たちと共に、研究を通して得られる新しい発見に日々、心躍らせながら充実した毎日を過ごしております。今後も、私自身が宇都宮大学から学んだ研究や学問の面白さを学生たちに伝えられるよう、全力で教育研究に励んで参りますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

新任教員のご挨拶



ねづ いくみ
根津 郁実

所属・職種：農学部 森林科学科
助教

専門：木材組織学・木材材質学

2025年6月に農学部森林科学科に着任いたしました、根津郁実と申します。宇都宮市出身で、市内の高校を卒業後、宇都宮大学農学部に入学し、東京農工大学大学院連合農学研究科（宇都宮大学配置）にて博士（農学）を取得しました。その後、本学で1年間、特任助教として研究に従事し、このたび、助教として教育・研究に携わる機会をいただきました。

私の専門は木材組織学・木材材質学です。これまで、国内や東南アジアの樹木を対象に、細胞の大きさや構造といったミクロな特徴から、木材の強度などのマクロな性質まで幅広く調べてきました。木材の性質は、樹種や樹齢、遺伝的背景、環境条件などによって大きく異なり、こうした多様性がどのように生まれるのかに関心を持ち、研究を進めています。最近では、数理モデルを活用し、木材性質の解析・予測・シミュレーションにも取り組んでいます。これにより、木材性質評価のスマート化を進め、森林管理の現場で、木材の量だけでなく最終製品に求められる質も効率よく制御できることを目指しています。今後は、こうした研究を国内外で展開し、グローバルなレベルでの持続可能な森林資源の活用に貢献したいと考えています。

私自身、学生時代は、正解の有無にとらわれず、自ら問いを立て、考え、さまざまなことに挑戦させてもらえた、貴重な時間だったと感じています。今後は、これまでの研究で培ってきた「フィールド調査・ラボ実験・データ解析・とりまとめ」の経験を活かし、学生の皆さんに実践的な学びの機会を提供していきたいと考えています。その中で、学生の皆さん一人ひとりが、興味や関心を持ったことに挑戦できるような環境づくりに努めてまいります。今後ともご指導・ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。